

Efficacy and safety of preoperative DCF therapy for resectable squamous cell carcinoma of the esophagus

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 白井, 雄史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032145

主論文の要旨

Efficacy and safety of preoperative DCF therapy for resectable squamous cell carcinoma of the esophagus

(根治切除可能食道癌に対する術前 DCF 療法の有効性及び安全性の検討)

東京女子医科大学消化器外科学教室

(指導:山本雅一 教授)

白井 雄史

東京女子医科大学雑誌 86 巻 2 号(平成 28 年 4 月 25 日発行)に掲載

【要旨】

近年食道癌化学療法において Docetaxel(DOC) / Cisplatin(CDDP) / 5-fluorouracil(5FU) 療法(DCF 療法)が行われているが、食道癌治療ガイドラインでは明記されていないため、今回術前 FP 療法群と臨床病理学的項目について比較検討を行った。cStage 2 / 3(T4 症例、R 2 切除症例は除く)進行胸部食道癌に対し、当院で 2010 年より術前 DCF 療法を行った 27 症例を対象とし、2000 年～2009 年まで当院で術前 FP (CDDP / 5-FU)療法を施行した 22 例と比較、安全性と有効性を Retrospective に検討を行った。DCF 群では臨床奏効率 62.9 %、組織学的奏効率 70.4%であった。有害事象は Grade3 以上の好中球低下は 22 例(発熱性好中球減少 5 例)であった。術後合併症は縫合不全 2 例、腸閉塞 1 例、心肺合併症 3 例、肝障害 1 例であった。FP 群では臨床奏効率は 63.6%、組織学的奏効率 68.2%であった。有害事象では Grade3 以上の好中球低下 5 例、発熱性好中球減少は認めなかった。術後合併症は縫合不全 1 例、肺合併症 6 例であった。DCF 療法は重症な有害事象が生じてはいるものの予防可能と考えられ、厳重な管理のもとに行えば術前化学療法の一つとして許容できるものとして考えられたが、今後さらなる検討が必要である。